



Red Hat Insights 1-latest

FedRAMP に準拠した Red Hat Insights のスタートガイド

Red Hat Insights の使用を開始する方法

Red Hat Insights 1-latest FedRAMP に準拠した Red Hat Insights のスタートガイド

Red Hat Insights の使用を開始する方法

法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

このドキュメントでは、FedRAMP[®] に準拠した Red Hat Insights for Red Hat Enterprise Linux および Red Hat Insights for Red Hat OpenShift Container Platform を登録およびインストールするための出発点とリソースを紹介しします。Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始まります。この取り組みは膨大な作業を要するため、用語の置き換えは、今後の複数のリリースにわたって段階的に実施されます。詳細は、Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ をご覧ください。

目次

第1章 RED HAT INSIGHTS の製品ページ	3
第2章 RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX (RHEL) のインストール	4
2.1. RED HAT ENTERPRISE LINUX SATELLITE が管理するホストに RED HAT INSIGHTS をインストールする	4
2.2. FEDRAMP に準拠した SATELLITE SERVER 統合の登録と管理	4

第1章 RED HAT INSIGHTS の製品ページ

Red Hat Insights は予測分析を採用しています。情報とデータを追加するたびに、よりスマートになります。関連する洞察を自動的に検出し、カスタマイズしたプロアクティブな次のアクションを提案し、タスクを自動化することもできます。Red Hat Insights を使用すると、お客様は Red Hat 認定エンジニアの経験や技術知識を活かすことができるため、事業運営に影響が及ぶ前に容易に問題を特定、優先順位付け、および解決できるようになります。

SaaS オファリングとして、Red Hat Insights は定期的に更新されます。定期的な更新により、Insights ナレッジアーカイブがリアルタイムで拡張され、ミッションクリティカルなシステムの安定性に影響を与える可能性がある新しい IT 関連の課題が反映されます。

第2章 RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX (RHEL) のインストール

このドキュメントでは、Red Hat Insights for Red Hat Enterprise Linux にシステムを登録するための出発点とリソースを紹介します。

Red Hat Insights のインストールには通常、Insights クライアントのインストールと、Insights で使用するシステムの登録が含まれます。Insights の登録とインストールには、さまざまな方法を使用できます。Insights の登録とインストールのプロセスをガイドする Registration Assistant も利用できます。リモートホスト設定 (RHC) ツールを使用することもできます。使用するインストール方法は、次のような条件によって異なります。

- Red Hat に初めて接続するかどうか
- 特定のバージョンの RHEL を使用しているかどうか
- 自動インストールと手動インストールのどちらを行うか
- その他の要因

2.1. RED HAT ENTERPRISE LINUX SATELLITE が管理するホストに RED HAT INSIGHTS をインストールする

Red Hat Satellite が管理する Red Hat Enterprise Linux ホストに Insights をインストールするには、以下を参照してください。

- [Red Hat Satellite でのホストの作成](#)
- [Ansible ロールを使用したクライアント上の反復タスクの自動化](#)
- [Red Hat Insights を使用したホストの監視](#)

2.2. FEDRAMP に準拠した SATELLITE SERVER 統合の登録と管理

サーバーで Insights を使用するには、サーバーを Satellite Server に接続する必要があります。Satellite Server を使用すると、サーバーが Red Hat Insights と通信できるようになります。

IP アドレスベースの許可リストは、Insights サービスへのネットワークアクセスを制限します。これにより、指定したサーバーとポートのみが Satellite Server に接続できるようになります。



注記

現在、Red Hat Insights サブスクリプションサービスは、FedRAMP 環境では利用できません。Red Hat は継続的にサービス提供を評価し、FedRAMP 環境の更新や拡張が利用可能になり次第発表します。



注記

ソフトウェア更新のための Red Hat コンテンツ配信ネットワークおよび Red Hat Subscription Management (RHSM) に対する既存の Satellite Server 接続要件に加えて、以下の要件が必要です。接続要件の詳細は、[How to access Red Hat Subscription Manager \(RHSM\) through a firewall or proxy](#) を参照してください。

前提条件

- Satellite Server が、ポート 443 で HTTPS プロトコルを使用して、ドメイン **mtls.console.stage.openshiftusgov.com** に接続できる。
- Satellite トラフィックの発信元となる静的パブリック Egress IP アドレス (またはアドレス範囲) が指定されている。



注記

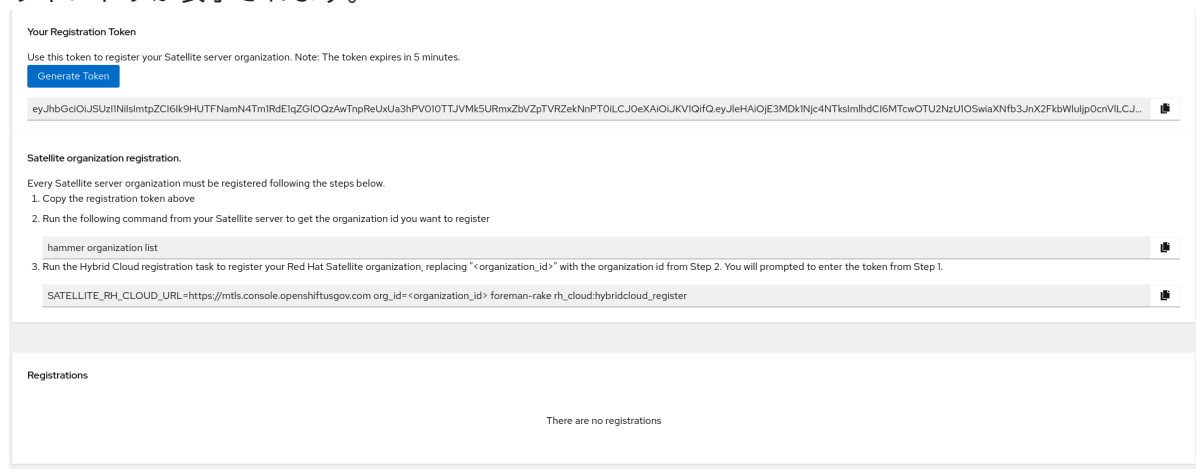
パブリック Egress IP アドレスを設定するには、Red Hat サポートにお問い合わせください。

パブリック Egress IP アドレスは、サーバーのプライマリーネットワークインターフェイスの追加 IP アドレスです。

- 組織管理者として Hybrid Cloud Console (<https://console.openshiftusgov.com>) にログインしている。
- Satellite Server への管理者 **ssh** アクセスがある。
- **ssh** を使用して Satellite Server にログインしている。

手順

1. Hybrid Cloud Console ウィンドウの上部にある **Manage Satellites** をクリックします。次のウィンドウが表示されます。



2. **Generate Token** をクリックして、組織の登録トークンを作成します。
3. トークンをコピーします。
4. システムでターミナルウィンドウを開き、次のコマンドを入力します。

```
# hammer organization list
```

システムは組織 ID を返します。次のステップのためにメモしておきます。

5. 以下のコマンドを入力します。organization_id は組織 ID に置き換えます。

```
# SATELLITE_RH_CLOUD_URL=https://mtls.console.openshiftusgov.com org_id=
<organization_id> foreman-rake rh_cloud:hybridcloud_register
```

システムは、生成したトークンを求めるプロンプトを返します。

6. プロンプトにトークンを貼り付け、**Enter** を押します。
システムは成功メッセージを返します。これで、システムを Satellite に登録し、**insights-client** を実行できるようになりました。

関連情報

- [Hammer CLI ガイド](#)
- [FedRAMP に準拠した Insights のクライアント設定ガイド](#)
- [オフラインネットワーク環境での Satellite Server のインストール](#)